東アジア人における妊娠前体格別の妊娠中の推奨体重増加量と新生児予後に関する文献レビュー

メタデータ	言語: jpn
	出版者: 日本DOHaD学会
	公開日: 2022-03-04
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 新杉, 知沙, 瀧本, 秀美
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/00004005

DOHaD 研究 (ISSN 2187-2597)
2021 年 第 9 巻 第 2 号 67 頁

第 10 回日本 DOHaD 学会
＜一般口演 2＞

東アジア人における妊娠前体格別の妊娠中の推奨体重増加量と新生児予後に関する文献レビュー

１医薬基盤・健康・栄養研究所

新杉　知沙
瀧本秀美

目的：日本の低出生体重児の割合は依然として高く、健やかな胎児発育のためには妊娠期における十分な体重増加が重要である。妊娠中の推奨体重増加量は IOM 基準を参考に検討されることが多いが、妊娠適齢期である日本の若年女性の痩せの割合は高く、体格の異なる IOM 基準ではなく、アジア人の体格を考慮した妊娠中の体重増加量が新生児予後に与える影響に関して最新のエビデンスを整理する必要がある。そこで、東アジア人における妊娠前体格別の妊娠中の推奨体重増加量と新生児予後に関する文献レビューを実施することを目的とする。
方法：2016 年 7 月～2020 年 11 月に文献データベース（PubMed 及び医中誌 Web）上で公表された論文のうち、検索式を用いて文献検索を実施した。検索式は、東アジア人、妊娠前体格別の妊娠中の体重増加、また新生児予後として早産、低出生体重、在胎不当過小（SGA）、巨大児、在胎不当過大（LGA）等のキーワードにより作成した。なお、妊娠前 BMI による体格区分はやせ（18.5 kg/m2 未満）、ふつう（18.5-24.9 kg/m2）、過体重（25.0-29.9 kg/m2）、肥満（30.0 kg/m2 以上）とした。
結果：包含基準に基づき文献の精査を行ったところ、最終的に 34 件を採択した。妊娠前 BMI に関りなく IOM 基準より体重増加が過少の場合には早産や SGA のリスクが上昇すること、また過剰の場合には巨大児や LGA のリスクが上昇することが示唆された。日本の 2006 年の基準を用いた研究においても、妊娠前体格が「やせ」または「ふつう」の女性が体重増加過少の場合、早産や SGA のリスクが上昇し、過剰の場合には、LGA のリスクが上昇することが報告された。
考察：新生児予後の改善のためには、妊娠前体格が「やせ」を始め「過体重」や「肥満」においても、体重増加過少は望ましくないと考えられた。2021 年 3 月に改訂された「妊娠中の体重増加指導の目安」も踏まえ、今後もさらなる最新のエビデンスの蓄積が求められる。